



1996年12月
記念すべき組目のハウスの支柱が
立ったときの写真。
高さ4メートル近いシコに登って、左右2本の
支柱をてっぺんでつないで一組のできあがり。

初めの一步から、10年

今年もまた、2月末になって、ヒバリが空の高いところで鳴く声を聞くようになりました。春、3月は卒業の季節。わが家の長男タカフミも、この春中学校を卒業し、4月からは、広島市内に住む祖父母の家から高校に通うことになりました。山本ファミリー農園も、4月からはいよいよ10年目に入ろうとしています。たくさんの方たちに支えられ、自然の恵みに助けられ、数え切れない程の失敗が、キラッと光るたった一つの喜びに結びついたときの力をバネに、がむしゃらに突っ走ってきたような感じです。これからも、この山の上の赤土の畑と、山本ファミリー農園を、どうぞ暖かく見守ってくださいますよう心からお願いいたします。

自然と向き合う、感覚を磨く

雨があがると小鳥の鳴き声が聞こえてくること。その日の気温や風を肌で感じる事。
毎日、それとなく空を眺め、日々のお天気と共に生活すること。
時報の様にグーと鳴るお腹。(…はしもっちゃんのは、ちょっと早いけど…) 一日3食、しっかり食べて、しっかり眠る。
雨が降れば雨に打たれ、雪が降れば雪に埋もれる。風が吹けばその風に吹かれ、身を任せること。
畑からの帰り道、突然、軽トラの前に現れ、その前を横切っていく一匹のタヌキ。
作業場で野菜の小分け作業をしていると、お隣りの畑の犬がいつの間にかそこにいて、ジーッとこっちを見ていたり。
つい10年前までは、コンクリートの壁で囲まれた、冷暖房完備の人工的な空間の中で、一日中太陽の光を見る事なく働いていた私たちにとって、この10年は自然と向き合い、自然のなかで暮らすことを学んだ10年。久しぶりに広島市内に出かけたとき、紙屋町の人込みを見て、「今日は、祭りか？」というあたりに、しっかりとその効果が現れているのかも…。

今年になって、マメ、マメ、マメ、って思っていたら、大和町のオカフさんに大豆と小豆の種を分けてもらえることになった。
圧力鍋を使い始めてから、豆がすごく身近になって、炒り大豆ごはんや、玄米小豆ごはんが気に入る。自分で豆を作って食べられるようになったら、幸せだな～。

(はしもっちゃん)

今読んでいるのは関口知宏著「ドイツ鉄道の旅」
「アウフヴィーダーゼーエン」(さようなら)
「ダンクシェーン」(ありがとう)
「グーテンターク」(こんにちは)
「グータンテーク?」
「グーたらテーシュ??」
「ギュータンテーショク!」
※声に出して読んでみてね。

(タクト)

今日の晩ごはんは、うどんがおいしいなあ～
(…え～? また? 昨日もうどんだった…)
ネギもいっぱいあるし、毎日うどんでもいい。
駅のうどんも食べたいなあ～。

(とんちゃん)

大室自然農園のミサコさんに麴を分けてもらって、甘酒を作った。うるち米で作るとさっぱりとした甘酒が、もち米で作ると甘い甘酒ができた。
しょうがを入れて、お鍋であたためて、う～ん、おいしい!!

(ノブコ)

合格発表の日、オレは道端に落ちていた100万円を、隣にいたヤツよりもほんの一息先に拾いあげた気分だった。
都心で学び、2年生になったらハワイの展望台に行く。
(…それってもしかして、天文台のこと?)
卒業文集に、トリノオリンピックのあったスペインに行きたいと書いたが、これも間違いだったことに、さっき、気づかされた。

(タカフミ)

